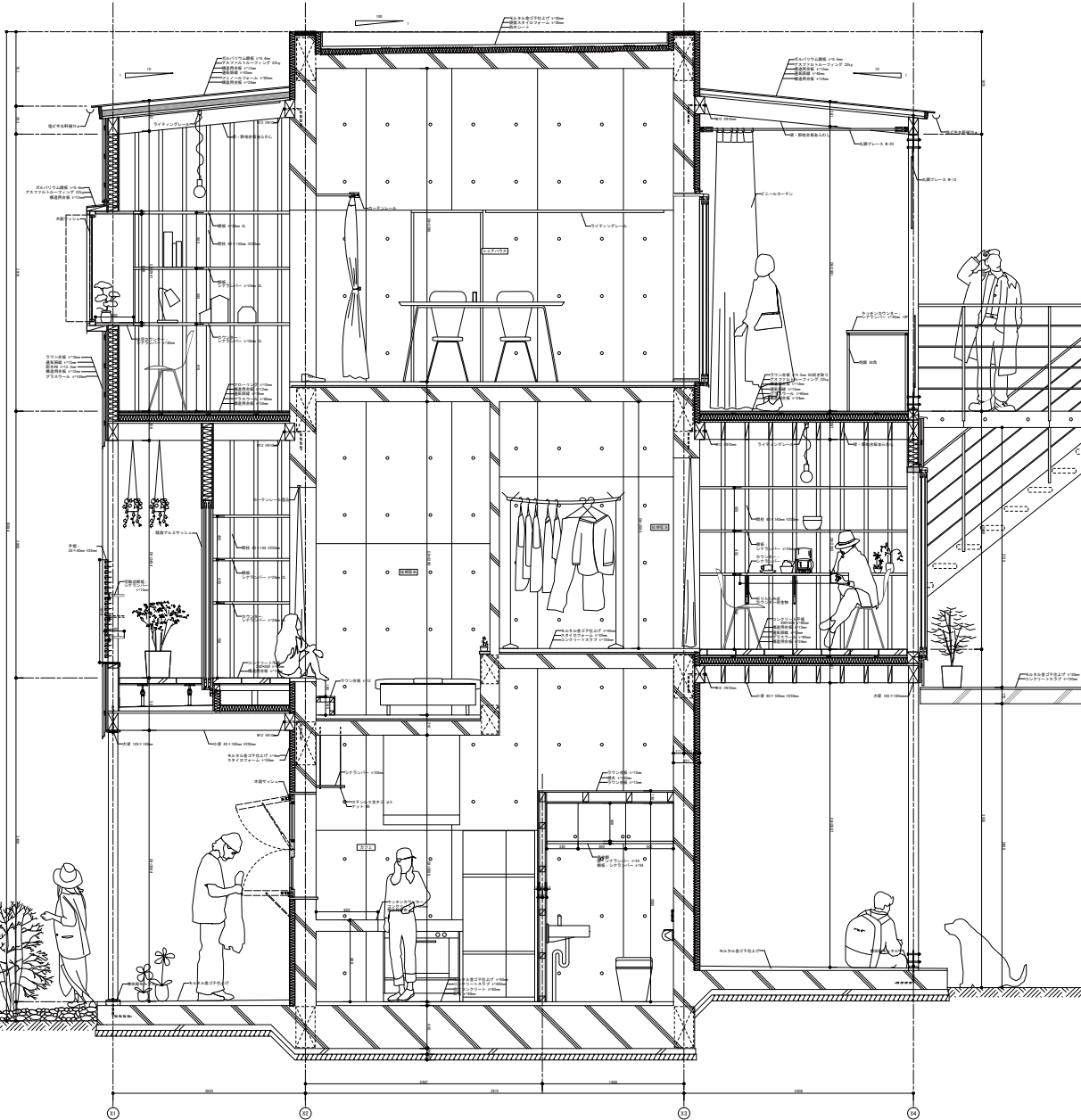


緑の再考

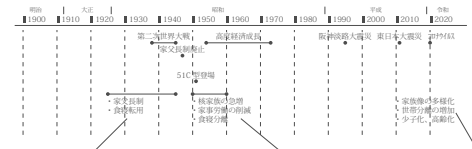
東アジアの暮らしから学ぶ



01. 背景

人口減少による社会構造や地域・家族との関係の変化に伴い、住まい手の価値観や住まいに対する考え方も多様化している。これまでの日本の集合住宅は、近代のプロセスの中で標準設計を中心に供給が行われてきた。居住形態も核家族という単位を元に設計され、近隣や地域との関係を築いてきた。近年では、これらに該当しない単身者や共同体が増え、家族や地域の新たなあり方を模索している。

本研究では、歴史時間軸の深い東アジアの暮らしを分析し、今日の住まいや地域との緑のあり方を再考する。



日本の集合住宅の変遷

02. 東アジアの暮らし

多様な暮らし方を考える上で、東アジアの住まいにおける空間認識の違いに着目する。伝統的な関係はあるが、文化的な背景や価値観は異なる。住まいや地域に対する考え方も影響していると考えられる。

日本人の習慣とは異なる状況であるが、住民にとっては日常であり、住戸の緑を超えて空間の快適性や利便性、他者とのコミュニティを獲得している。



生活が広がる歩道や路地
玄関前の歩道では、住人の所有物により平面的に拡張した空間が広がっている。バイクや自転車など、外で使うものを置くだけでなく、おぼあさんが住戸内部から椅子を持ち出し行き交う人や車の様子を楽しんでいた。

生活が拡張する路地上部
建物間の通路では、建物から張り出すように洗濯物が干される生活空間が積み重なっている。接合部ではない住棟間隔狭い住戸やバルコニーがない住戸も積極的に外部空間を活用している。

共同の庭としてのまち
路地の一角に、支柱のようなものを取り付けて洗濯物を干す空間にしている。面積的に住戸前に空間が確保しにくいのが、共同の庭としてのまちの一部を生活空間として利用している。

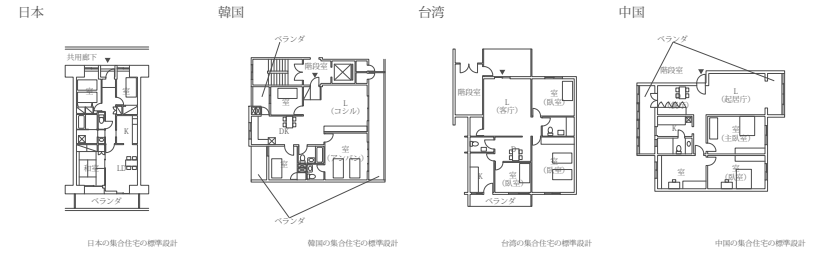
生活空間としての外部
本来外部空間として設けた空間であるバルコニーにカーテンを取り付けている。街からの視線は遮りつつ、住戸内部と一体として使える空間としている。

02-1. 上海の観察

以前訪れた上海の写真をもとに、公私の境界が曖昧な空間を観察した。

02-2. 各国の暮らしの分析

日本・韓国・台湾・中国を対象とし、住戸の緑に注目して住戸の空間構成についての分析を行う。各国の集合住宅の平面図を比較する。



日本 今日日本で主流であるのは片側下型で奥行き深い住戸が主である。リビングは共用廊下から最も近い私的な空間である。核家族での生活を想定しているため、面積も小さい。

韓国 韓国では、EV付きの階段室型で、住戸の中央付近に入り口がある。エントランスと「コソル」と呼ばれるリビングがダイニングが近く、日本とは異なる特徴を持つ。

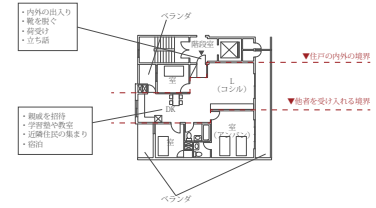
台湾 台湾も階段室型の住戸で、韓国と同様エントランスに入り口があり、ダイニングがある「客厅」と呼ばれる空間が確保されている。また、LDKと個室の「臥室」が明確に区別される。

中国 中国の住戸プランは台湾と類似しており、主にLDKが統合したような「起居庁」と「餐厅」からなる「庁」と「臥室」で構成される。

02-2-1. 住まいに対する認識

日本以外のリビングは住戸の境界に位置し、用途も多様である。韓国の例（右図）では住戸の内外の境界と居住者以外を受け入れる境界にずれが生じ、住宅とまちの緩衝帯として機能している。

そのため、今日においても家族だけでなく近隣と関わる場でもあり、人を招き入れる場所として存在している。



02-2-2. 環境に合った暮らしの工夫

気候や風土による違いもある。韓国のコソルは人が集まる場であると同時に、キッチンとつながり住戸を横断する。外部と接する2面には開口があり、通風を確保している。一方、アンパン（室）は壁で囲われ断熱を重視しており、季節による使い分けもしている。また、ベランダを比較すると、台湾は高温多湿の環境のため屋外である。面格で開かれ、涼を得る場所となっている。中国では、寒さ対策により内部化され、サンルームとして使用されている場合が多い。住戸が拡張することで、採光を確保し住戸内部を明るく保っている。いずれも快適な住環境を獲得するために、外部環境を積極的に取り入れている。



地域の暮らしの場でもあるコソル 出典：アジアの家族と住まい 藤原節子
階高が取り付けた台湾のベランダ 出典：http://ma.goo.jp

03. 設計手法

03-1. 住まいと地域の関わり

住まいは居住者自身の生活の場であると同時に、その地域に暮らす人たちの場でもある。

東アジアの国々では、習慣として親戚がよく集まり食事や宿泊をするため、リビングが居住者と居住者以外の中間の場となる。集合住宅においては、集合室のようなものではなく、近隣住民との集いや学習場などをリビングで開くこともある。

また、玄関前やバルコニーに溢れ出る生活が地域との接点や表情をつくる。

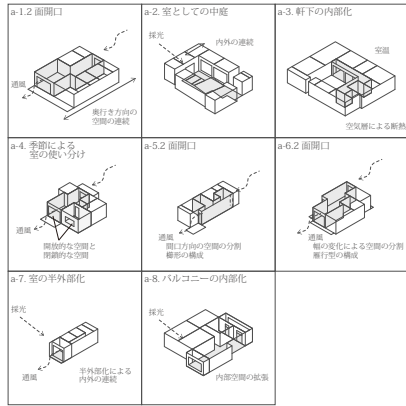


03-2. 暮らしの環境的手法

東アジアの住宅や集合住宅を取り上げた論文や書籍を対象として、掲載された図面や写真をもとに分析を行った。環境的配慮がなされた空間を把握するために、東アジアの暮らしに見られる手法を抽出する。通風、採光、室温の自然環境に着目し、a:平面構成、b:断面構成、c:建築部位別に整理した。

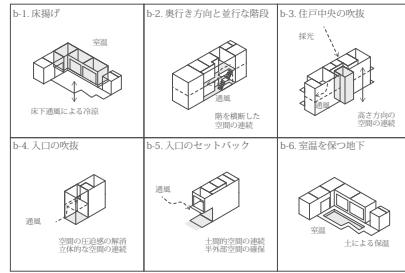
03-2-a. 平面構成

住戸を横断する2面開口の構成による通風の確保のために、空間の幅の変化や分割の仕方などの平面工夫が見られた。また、ベランダや中庭などの屋外を気候や状況に応じて設けて変化させ、内部空間と連続して利用している。



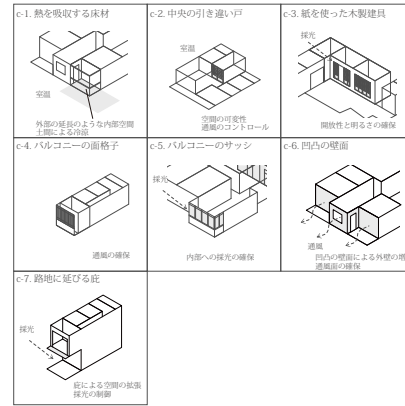
03-2-b. 断面構成

通風のための床下空間や地熱を利用した土間など断面的工夫が見られた。また、空間の高さ方向の操作により通風や採光などの自然環境を立体的に内部空間へと連続させている。



03-2-c. 建築部位

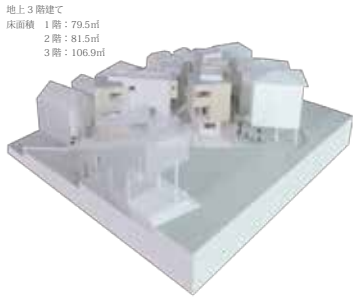
空間を快適に保つための素材や設えなど建築部位の工夫が見られた。また、凹凸の壁面による外壁の増加や路地に延びる庇が住環境の向上を図るとともに、特徴的な対観をつくる。



04-3. 計画敷地

Site A. 地域の学びの場 (新築)

大学のサイテライトキャンパスやマイクロライブラリーなどを複合させた「地域メディア」に住居の新築である。神奈川大学30号館の向かいに位置し、多くの大学生の目に留まりやすいため、周辺の学校や地域の教室と連携した空間とする。また、居住形態はシェアハウスや短期宿泊し、利用者が状況に応じて選択される。

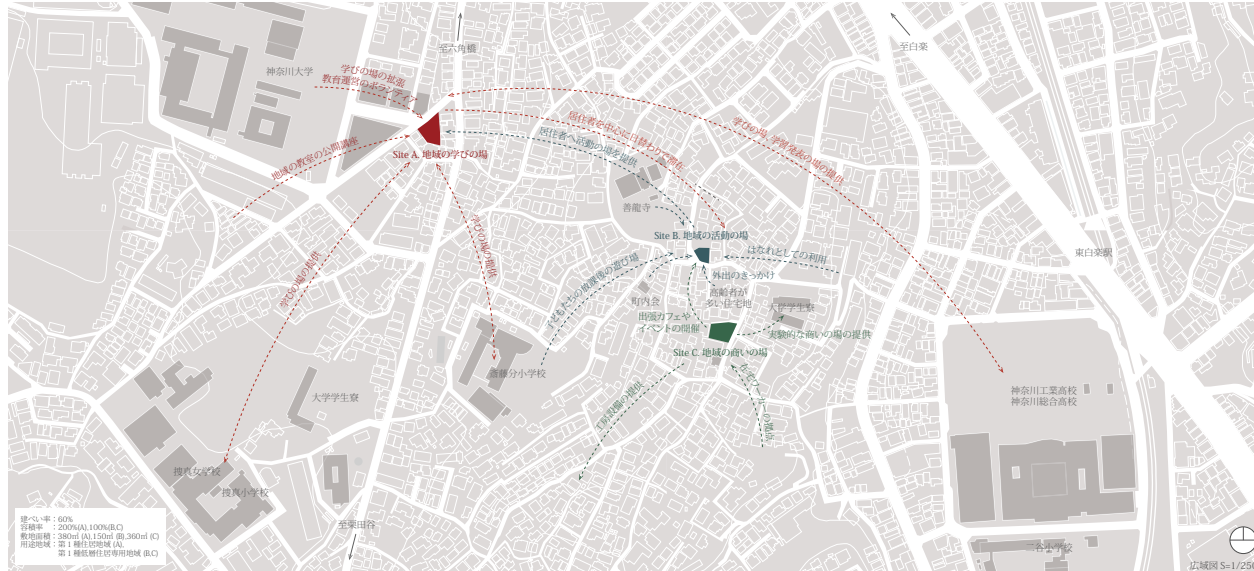


目的：同一目的を持つものが集まり地域との関わりを創出
機能：周辺の学校や店舗と連携しながら地域との接点を持つ「地域のメディア」
居住者の入れ替えサイクルや住まい方の多様化に対応するための賃貸住宅
3戸、シェアハウス4戸
多拠点居住や短期滞在の暮らしに対応するための宿泊施設2戸



04-4. 全体構成

前述のプログラムと計画敷地周辺の特徴をもとにエリア全体を構成する。



Site B. 地域の活動の場 (新築)

地域の活動拠点としてキッチンやリビングを設けた「地域のはなれ」の新築である。前面道路は多くの人が利用する東白楽方面への通りであり、近くには寺や町内会もある。コミュニティへの参加を促す空間として、既存コミュニティに属さない人たちの相互の関係をつくる。

目的：学生や単身者の地域的な孤立の解消
高齢者など家の中で過ごしがちな人への外出のきっかけづくり
機能：気軽に立ち寄れる場所として地域に開いた「地域のはなれ」
地域と多様な距離感と場所をつくるアトリエやキッチン

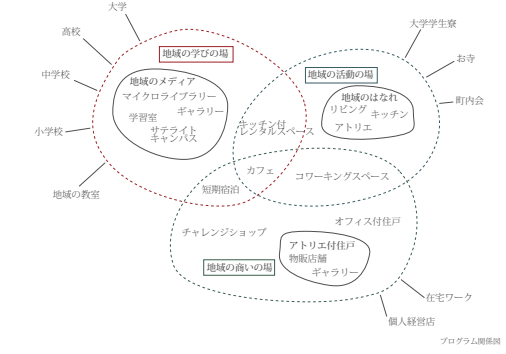


04. 提案

04-1. プログラム

本計画では、自然環境を取り込み住環境の向上を図るとともに、近隣共同体との関係をつくり、周囲との連携で様々な利用が可能な空間を持った住宅を提案する。

敷地に生じる新たな空間が周辺の既存施設や活動と連動し、地域の学び、活動、高いなどの関係性を結び直す。特に従来の学生や単身者向けの住まいの多くは、食事と睡眠の要求を満たす場所として想定されていたが、昨今の社会情勢の変化によりその価値観が変わろうとしている。



04-2. 対象エリア

横浜市神奈川区青森分町周辺は、戸建住宅が多く建ち並ぶエリアである。周辺には大学があり、学生向けの集合住宅も多く存在する。東白楽も程近く、公共交通機関の利便性も良い。

Site C. 地域の高いの場 (改修)

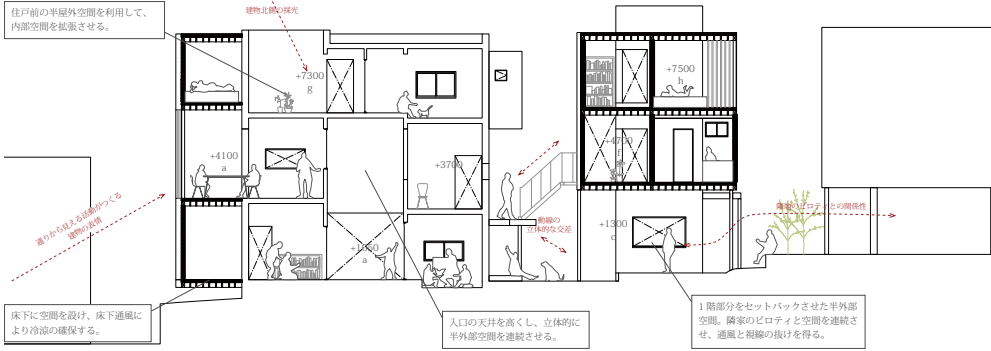
周辺の高いや既存の建物、地形を活かした改修計画である。美容院が近くにある、東白楽方面へ下ると医院や食料品の店舗もある。生業につながるチャレンジショップやコワーキングスペース、職住一体のアトリエ付住戸を設け、それらを通じて、地域の様子として現れにくい在宅ワークなどの関係性を築く。



目的：職住一体の暮らしやリモートワークなどの新しい働き方への対応
機能：実験的な高いや活動が行える「アトリエ付住戸」共同アトリエシェアハウス5戸
地域に根ざしたオフィス付住戸1戸
地域の中で働く場所を選択できるコワーキングスペース

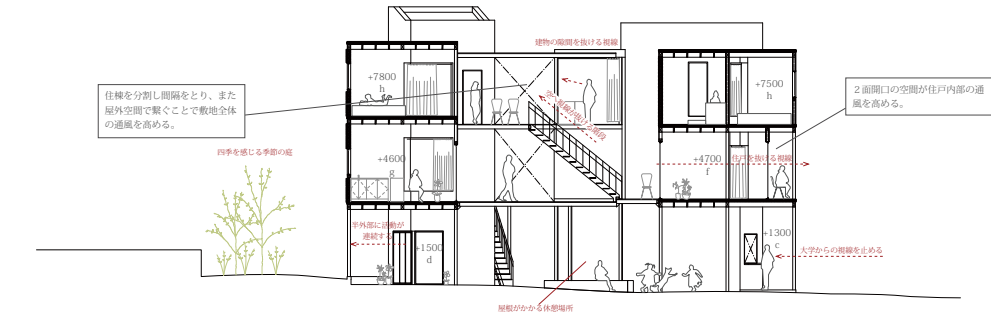


Site A. 地域の学びの場



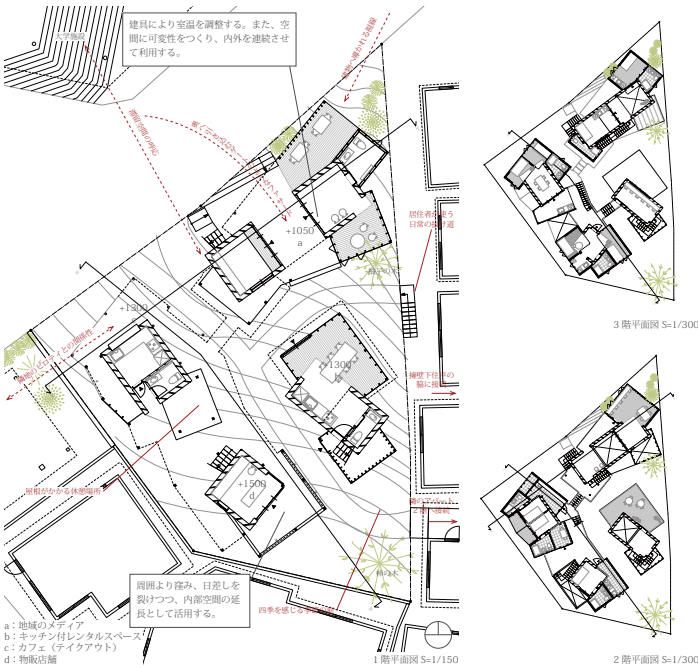
a: 地域のメディア c: カフェ (テイクアウト) f: 短期宿泊 g: 賃貸住宅 h: シェアハウス

A-A' 断面図 S=1/100



c: カフェ (テイクアウト) d: 物販店舗 f: 短期宿泊 g: 賃貸住宅 h: シェアハウス

B-B' 断面図 S=1/100



a: 地域のメディア
b: キッチン付レンタルスペース
c: カフェ (テイクアウト)
d: 物販店舗

1階平面図 S=1/150

2階平面図 S=1/300



共有部と個室が柔軟に仕切られるシェアハウス



住戸外部へ溢れ出る生活

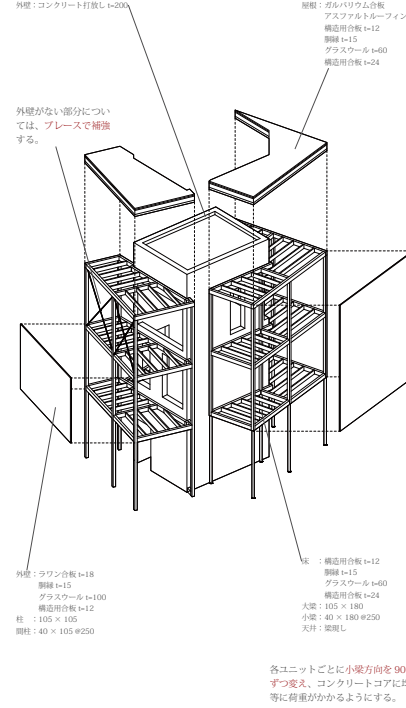


シェアハウス (3階) 平面図 S=1/75

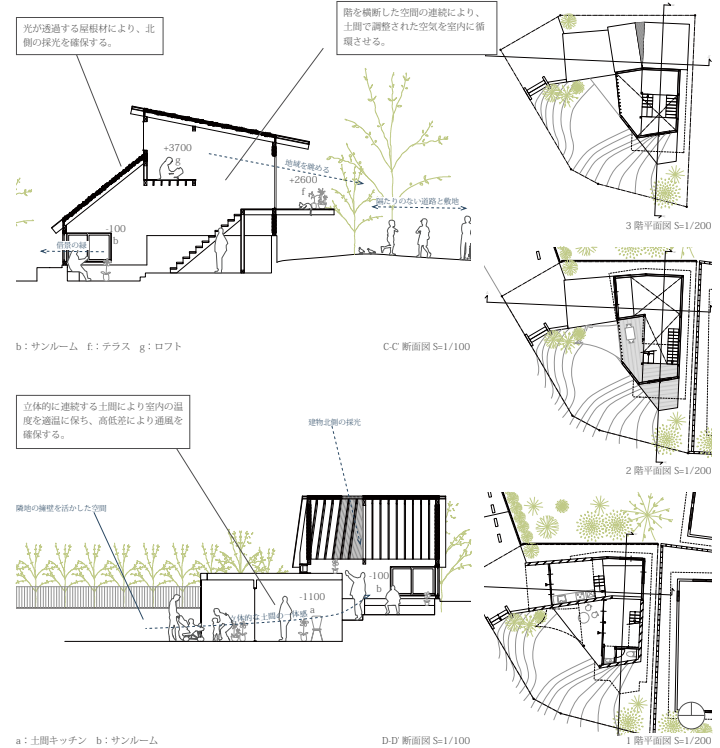


賃貸住宅 (2階) 平面図 S=1/75

Site B. 地域の活動の場



構造計画図



a: 土間キッチン b: サルーン

D-D' 断面図 S=1/100

1階平面図 S=1/200



隣地の駐車場まで延長する活動



土間キッチン (1階) 平面図 S=1/75



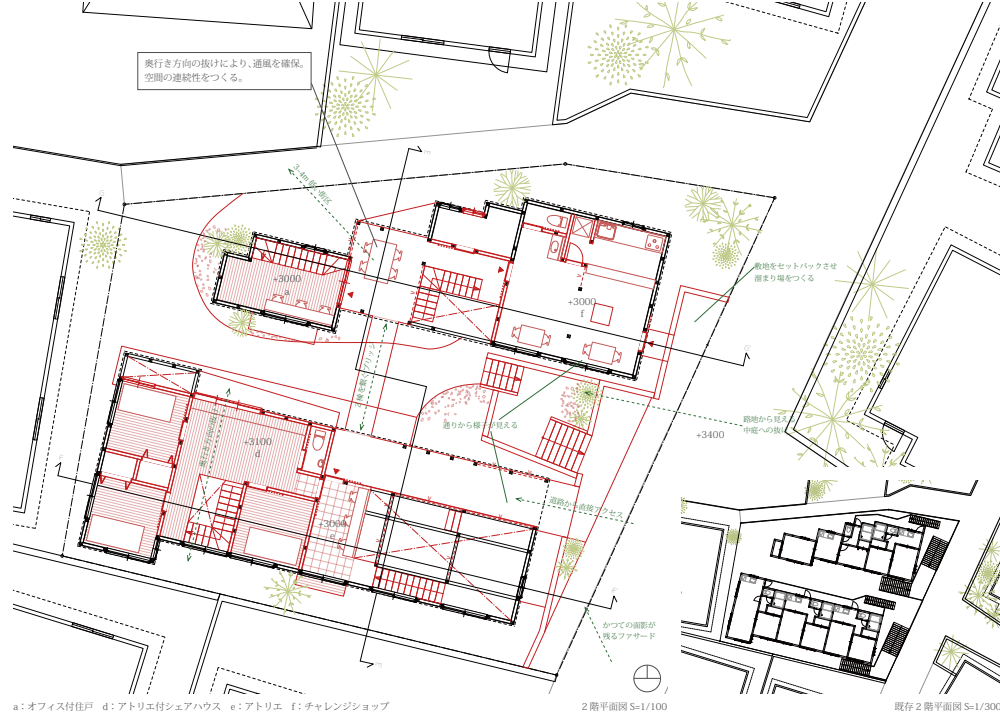
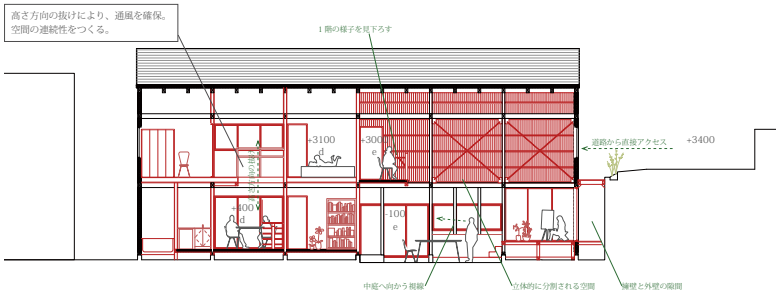
タープを張って日陰を延長



ビロティ (1階) 平面図 S=1/75



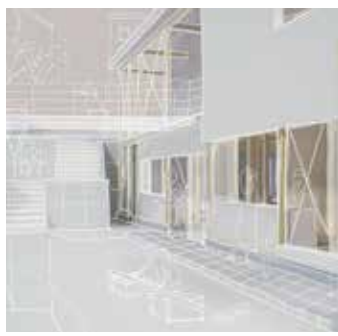
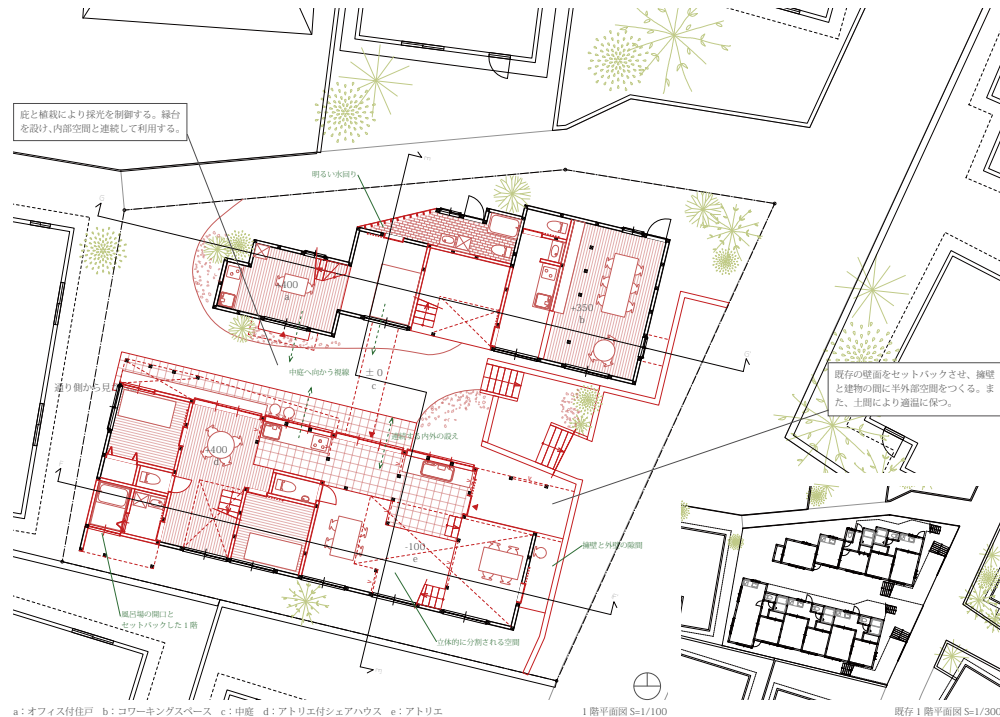
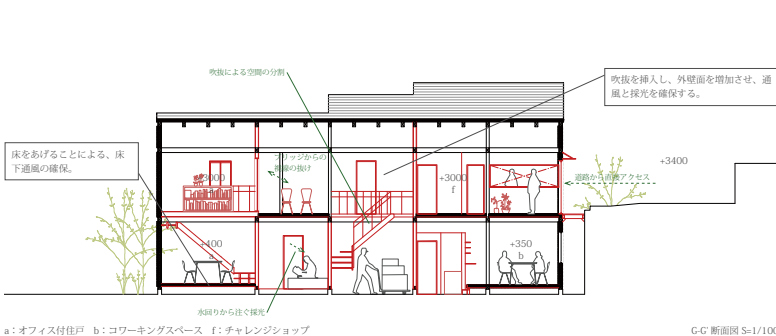
中庭側から見た外観



通りから見た敷地



通り側(2階)平面図 S=1/75



内外を連続した中庭での活動



中庭(1階)平面図 S=1/75